



## 宮本 真一

### 勤務先：

北武コンサルタント(株)  
技術開発室  
〒062-0020 札幌市豊平区  
月寒中央通7丁目 北武第  
2ビル

TEL 011-851-3012

FAX 011-851-3433

E-mail : s-miyamoto@hokubu-c.co.jp

専門：機械部門（材料力学・構造解析・構造設計）

**自己PR：**私は1988年(昭和63年)に川崎重工業(株)に入社し、以来13年間、航空宇宙産業界で育ってきました。前半は航空宇宙用構造材料の研究開発を行い、後半は航空機の構造設計及び構造解析を行ってきた構造技術者です。3年前の2001年(平成13年)、様々な人生経験・技術経験を積ませていただきお世話になった会社を離れ、故郷北海道にUターンしてきました。北海道には私のような製造業に携わる技術者を迎え入れてくれる業種が少なく、故郷北海道で活躍したくても仕事がないために断念している技術者は多数おります。私の場合は、建設系ならば構造技術者としての経験を活かせる可能性があるのではないかと考え、今とは別の土木設計会社に転職してきました。私にとってはリスクのある大きな挑戦でした。

異なる業界の中で業界特有のルールを覚えつつ、自分の経験からの主張も行ってきましたが、なかなか私の言い分は理解されず、徐々に宇宙人のような存在になっていくのを感じました。しかし、建設業界にもやはり宇宙人はいました。それも北海道に。その人は当社の専務取締役で、(財)鉄道総合技術研究所出身のコンクリート構造物の耐震設計技術を研究開発してきた土木技術者です。「土木業界の宇宙人」との出会いにより、私も建設業界に存在可能となりました。現在、技術開発室を今年2004年(平成16年)4月に新設し、建設分野全般における性能照査型設計の推進に向けた技術開発を行っております。

ところで、私の感覚では、土木技術者は地球惑星

表面開発エンジニアではないかと考えております。土木技術者は地球表面クリエイターであり、建設産業は地球環境に大きな影響を与える分野であると思います。その分野に航空宇宙業界から飛び込んできた者として私は、異分野諸科学の融合によるシナジー効果を発揮すべく役割を果たしていきたいと考えています。人工衛星や航空機等から取得した地形地質情報を活用するGIS(地理情報システム)は、まさに土木技術、航空宇宙技術や情報技術等のコラボレーションです。北海道の英知を結集して地元からマイクロ衛星を打ち上げようとしている動きもあるので、私もぜひ参画させていただきたいと考えております。

北海道の経済不況は確かに深刻ですが、逆境だからこそ各々の持ち味を發揮し力を合わせれば、既存の産業形態を革新しさらには新たな産業を創生できる可能性もあると思います。その意味でも北海道技術士センターのネットワークを活用して北海道地域産業の活性化に貢献できればと思っています。

建設業界は公共事業削減の影響を大きく受けている産業ですが、北海道だけでもまだ2.5兆円規模の市場があり、日本での市場規模1兆円の航空宇宙業界から来た私にとっては非常に大きく魅力ある市場に感じます。しかし、公共事業は製造業とは違う特別なものという考え方で硬直化しているようにも見えます。私は製造業出身ですので経営工学的な考え方を叩き込まれてきたせいも、公共事業を特別視する考えにはどうもなじみません。ものを設計して製造(施工)することに何も違いはないと考えます。また、官需と民需を区別することは社会基盤を築くために必要でしたが、第一段階として成熟した今、異なる次元に進化させる必要があると思います。私は建設業界等の受注産業にも経営工学的な考え方が有効と考えており、ぜひ実践していきたいと考えております。

以上、この場をお借りして建設的と考える主張、意見を発信させていただきました。共鳴していただける方々がいらっしゃればまことに幸いに思います。なお、技術士複数部門を目指し挑戦していきたいと考えておりますのでご指導よろしく申し上げます。